

令和3年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

⑧課題:インゲンマメモザイクウイルス抵抗性と機械収穫適性を持つ俵型大納言小豆品種の育成(2~4年度)

代表者:京都府農林水産技術センター生物資源研究センター 主任研究員 伊藤寿美子

目的

高級和菓子の原料である京都府産の大納言小豆において、インゲンマメモザイクウイルス(以下、BCMV)抵抗性と機械収穫適性を有する有望2系統の現地適応性を評価して特性評価を行う。また、新たなBCMV抵抗性遺伝資源を探索する。

成果

①現地適応性評価

- ・特性調査と餡の食味評価から有望2系統を絞り込み、現地で狭条密植栽培・コンバイン収穫等で作業性・収量性調査を実施したが、試験地域で結果が異なり評価が難しかったため、次年度に再調査を行う予定である。
- ・なお、過去の結果や当センターの結果と同様、これらの育成系統の2L率は「京都大納言」に対して有意に高く、大粒であることが確認できた。

②品種登録に向けた特性評価

- ・品種登録出願を行うために、選抜した有望2系統と対照品種について、開花期、頂小葉の長さ、幅、莢の色、成熟期等の特性データを取得した。
- ・その結果、莢の色について「京都大納言」は黄白色、育成系統は淡褐色、百粒重について「京都大納言」は大、育成系統はかなり大と区別性が認められた。

③新たなBCMV抵抗性遺伝資源の探索

- ・昨年度に選抜した10系統に対して再び接種試験を実施した結果、BCMV抵抗性系統はないと考えられた。今後、さらに100系統の接種試験を行う予定である。

小豆育成系統の子実形状

